

調査地概要

小谷麻希

1 調査概要

2 榛原郡川根本町千頭地区の概要

2.1 地理

2.2 行政区画の変遷

2.3 生業

参考文献・参考 HP

1 調査概要

静岡大学人文学部社会学科文化人類学コースで毎年開講される「フィールドワーク実習」では、授業の一環として、静岡県内でフィールドワークを行っている。平成 22(2010)年度は、6月4日から10日までの7日間、静岡県榛原郡川根本町千頭(せんず)地区において調査を実施した。前年度は千頭地区から南西約10キロの場所に位置する水川区において調査を実施した。

今回の調査を実施したのは、教員3名、学部生10名、大学院生1名の計14名である。8月の夏季休暇中には、学生が個々に追調査を行った。調査においては、インタビュー、観察、映像や音声の記録、現地での文献収集などの方法を用いた。

2 榛原郡川根本町千頭地区の概要

2.1 地理

川根本町は、平成17(2005)年に旧中川根町と旧本川根町が合併して誕生した。静岡県中部にあり、大井川中流域に位置している。川根本町には主要道路として国道362号線、国道473号線があるほか、町内には大井川鉄道が通っている。総面積は496平方キロメートルで、県全体の6.4パーセントにあたる。町域の大部分が森林で、このうち約9割を森林が占めている。

主な産業として、農業、工業、商業、林業、建設業、そして観光業が挙げられる。川根本町は特に茶業が有名で、川根地域(川根本町および島田市川根町)で生産される「川根茶」は、日本屈指の銘茶として知られている。また、南アルプスの壮大な自然や、町の北端周辺に位置する温泉郷は、重要な観光資源となっている。

千頭地区は、大井川中流右岸の段丘上にあり、川根本町のほぼ中央に位置する。地区内はさらに千頭東・千頭西・寺馬(てらま)の3区に分かれている。平成22(2010)年11月現在、3区の合計世帯数は268戸、人口は661人で、そのうち男性が335人、女性が326人である。

千頭地区は旧本川根町の中心地区で、現在は川根本町役場総合支所、森林組合事務所、

診療所、郵便局、各種商店などが集中し、小規模ながら市街地をなしている。そして大井川鉄道千頭駅もここにあり、SL列車が走る大井川鉄道本線の終点、大井川上流の温泉地寸又峡・接阻峡へ通じる井川線や路線バスの出発点にもなっている。

千頭地区全体を見た場合、千頭東のように各種商店、役場、診療所などが集中するマチの性格が強い区域と、寺馬のように農村的性格の強い地域に分かれている。このように、一つの地区でマチ的要素と農山村的要素を兼ね備えているところに千頭の特徴があるといえる。

2.2 行政区画の変遷

千頭地区は、江戸時代には遠江国榛原郡千頭村として成立していた。地名の由来は大井川の源であり、四川合流の地で伊豆美の里とも称し、泉頭とも記したことによるという説や、昔日本武尊が東征の時、逆徒を追いここに至って千首を切ったことから名付けられたという説(「駿河国草薙神社記」)など、諸説ある。明治 22(1889)年に町村制が施行され、榛原郡は崎平村・千頭村・奥泉村・犬間村の 4 か村が合併して上川根村が成立した。その後、昭和 31(1956)年になると、上川根村は志太郡東川根村と合併し、本川根町が誕生する。千頭地区内には以前からいくつかの地域的なまとまりがあったが、この町村の施行以降、千頭西・千頭東・寺馬の 3 区に分けられた。そして平成 17(2005)年には平成の大合併により、本川根町と中川根町が合併し、現在の川根本町が誕生した。

2.3 生業

千頭のある旧本川根地域は、周囲を山に囲まれている。千頭には広大な国有林が広がっている。そのため、この地の人々は林業と茶業を主な生業としてきた。

明治初期、この地域の山林はほとんどが自然林であり、山の斜面を焼畑とし、稗、ソバ、粟、黍などを栽培し、スギ、ヒノキなどの造林はおこなわれていなかった。しかし、明治中・後期になると木材の急激な需要増により林業が発達していく。千頭には営林署が置かれ、林業とともに製材業も活発化していった。このように地域の主産業の一つであった林業だが、現在は材価低迷や海外からの安価な輸入材の増加によって林家数は減少し、不振が続いている。

静岡県はお茶の産地として有名である。その中でも川根地域のお茶は銘茶として名高く、天皇杯や全国品評会で産地賞などを多く受賞している。茶の栽培に適した土地・気候が、高品質な茶の生産を支えているのである。お茶は川根本町の農業産出額全体の約 9 割を占めている。

千頭でも茶が栽培されている。かつては在来種が栽培されていたが、昭和 20 年代後半からは在来種に代わり、茶摘み時期が早く、収量が多い「やぶきた」種が普及していった。だが、千頭は土地が狭く、畑も小さいので茶で生計を立てることは難しい。そのため、現在は主に自家用として栽培されているという。林業や茶業のほかにも、畑作、椎茸栽培、養

蚕、炭焼き、狩猟など多岐にわたる生業が行われていた。

また、昭和 30 年代からの大井川上流部のダム建設などにより、千頭には他地域から多くの技術者、労働者とその家族が移住・移転してきた。営林署や材木会社に属して木材伐出や河川流送を生業とした人々も多いという。このように、千頭ではいくつもの生業を巧みに複合させて暮らしを立ててきたのである。

川根本町の主産業は農林業であったが、就業状態は徐々に一次産業から第二次・第三次産業へ移行していった。千頭を含め、川根本町は第一次産業の茶業・林業の町から、温泉・景観等を背景とした観光と商業など第三次産業の町へと変化しつつある。

参考文献

本川根町史編さん委員会(編)

2003 『本川根町史 通史編』 本川根町

近畿大学文芸学部(編)

1998 『本川根町 千頭の民俗』 近畿大学文芸学部

参考 HP

川根本町

<http://www.town.kawanehon.shizuoka.jp/>(2010/10/25 現在)

日本歴史地名体系

<http://rekishi.jkn21.com>(2010/10/19 現在)



地図1 静岡全体図



地図2 千頭周辺図(75000/1)



地図3 千頭全体図(21000/1)